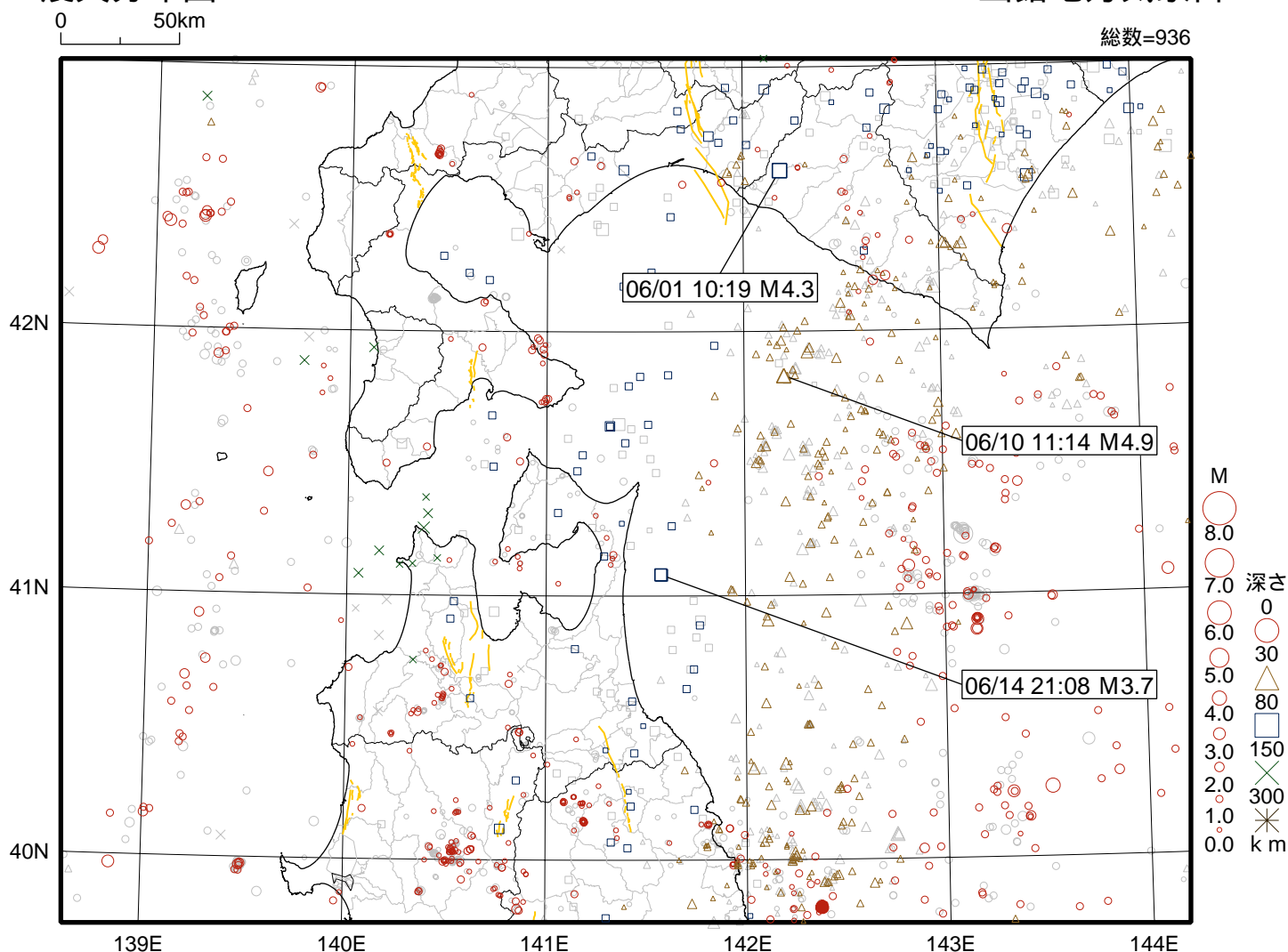


渡島・檜山地方の地震活動図

2022年6月1日～2022年6月30日

震央分布図

函館地方気象台



地震概況（2022年6月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回（5月は5回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

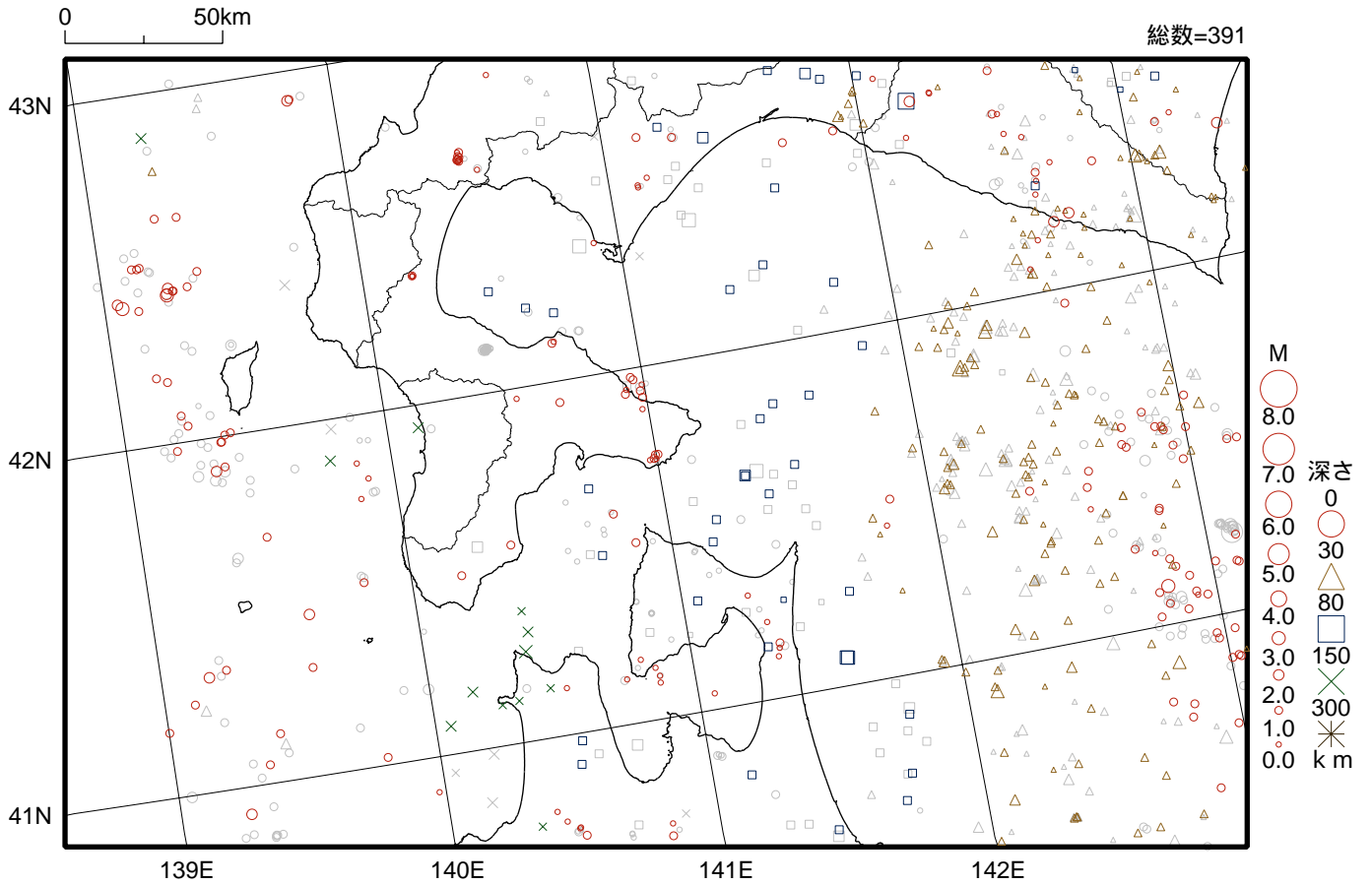
1日10時19分、日高地方西部の地震(M4.3、深さ102km)により、函館市泊町、函館市新浜町、鹿部町で震度1を観測しました。

10日11時14分、浦河沖の地震(M4.9、深さ67km)により、函館市泊町、函館市新浜町で震度2を観測したほか、渡島地方で震度1を観測しました。

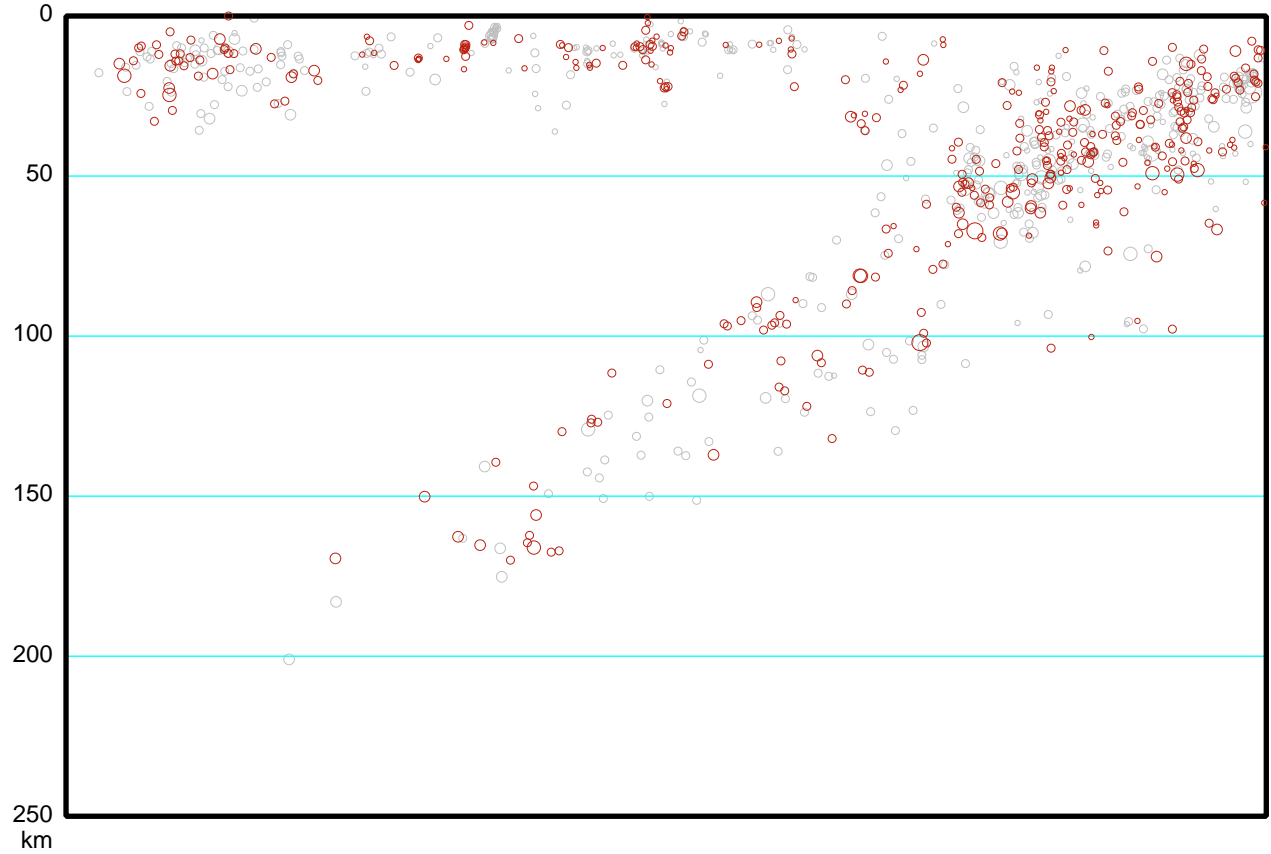
14日21時08分、青森県東方沖の地震(M3.7、深さ81km)により、函館市泊町で震度1を観測しました。

2022年6月1日 ~ 2022年6月30日

震央分布図



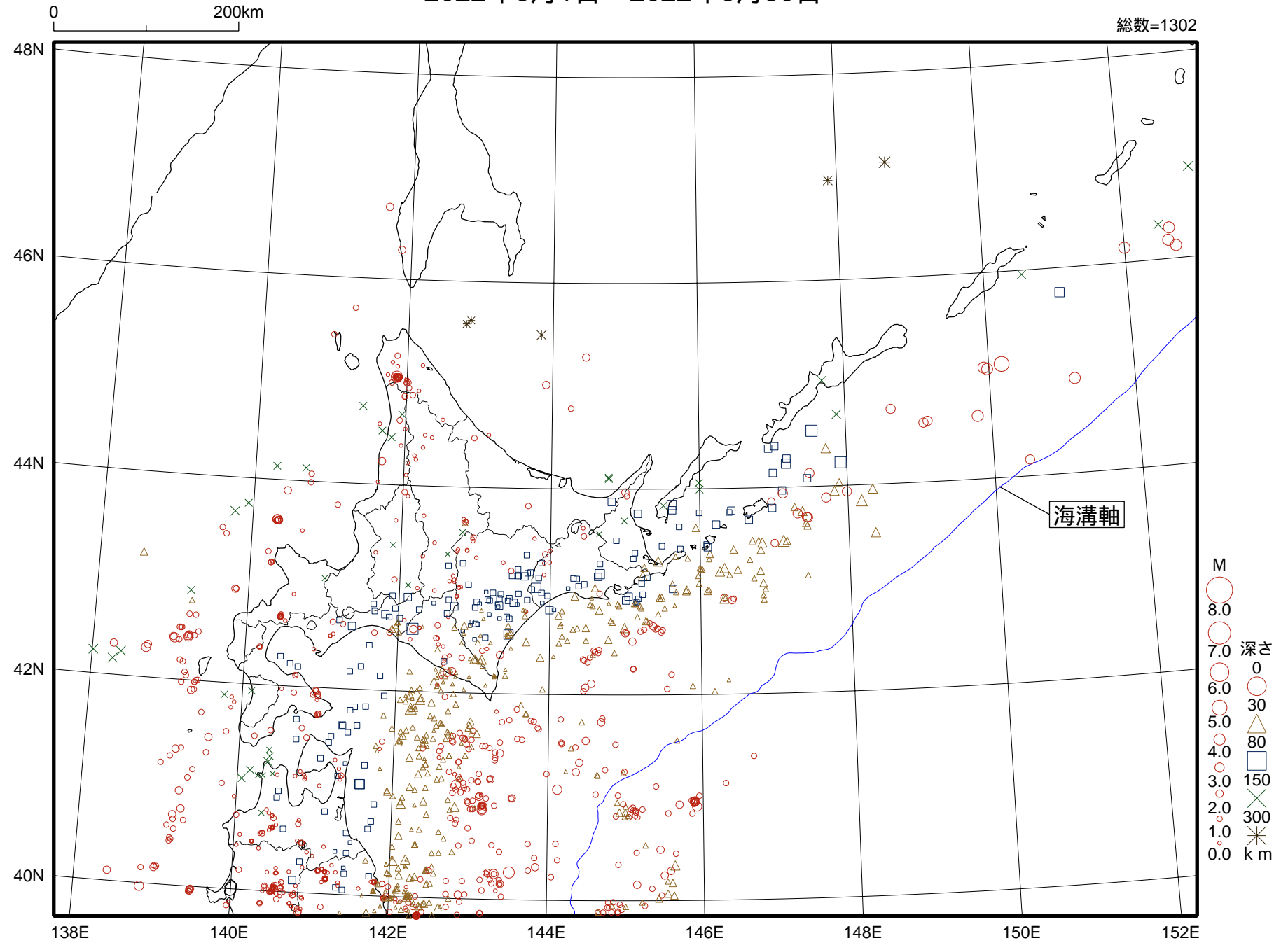
断面図



北海道の地震活動図

2022年6月1日 ~ 2022年6月30日

震央分布図



渡島・檜山地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2022年6月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2022年 6月 1日 渡島地方	10時19分 震度 1	日高地方西部 函館市泊町 * (09)	42° 36.4 N	142° 11.3 E	102 km	M4.3
2022年 6月10日 渡島地方	11時14分 震度 2 震度 1	浦河沖 函館市泊町 * (21) 函館市尾札部町 (08) 鹿部町宮浜 * (09)	41° 49.9 N	142° 12.1 E	67 km	M4.9
2022年 6月14日 渡島地方	21時08分 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (05)	41° 04.8 N	141° 34.5 E	81 km	M3.7

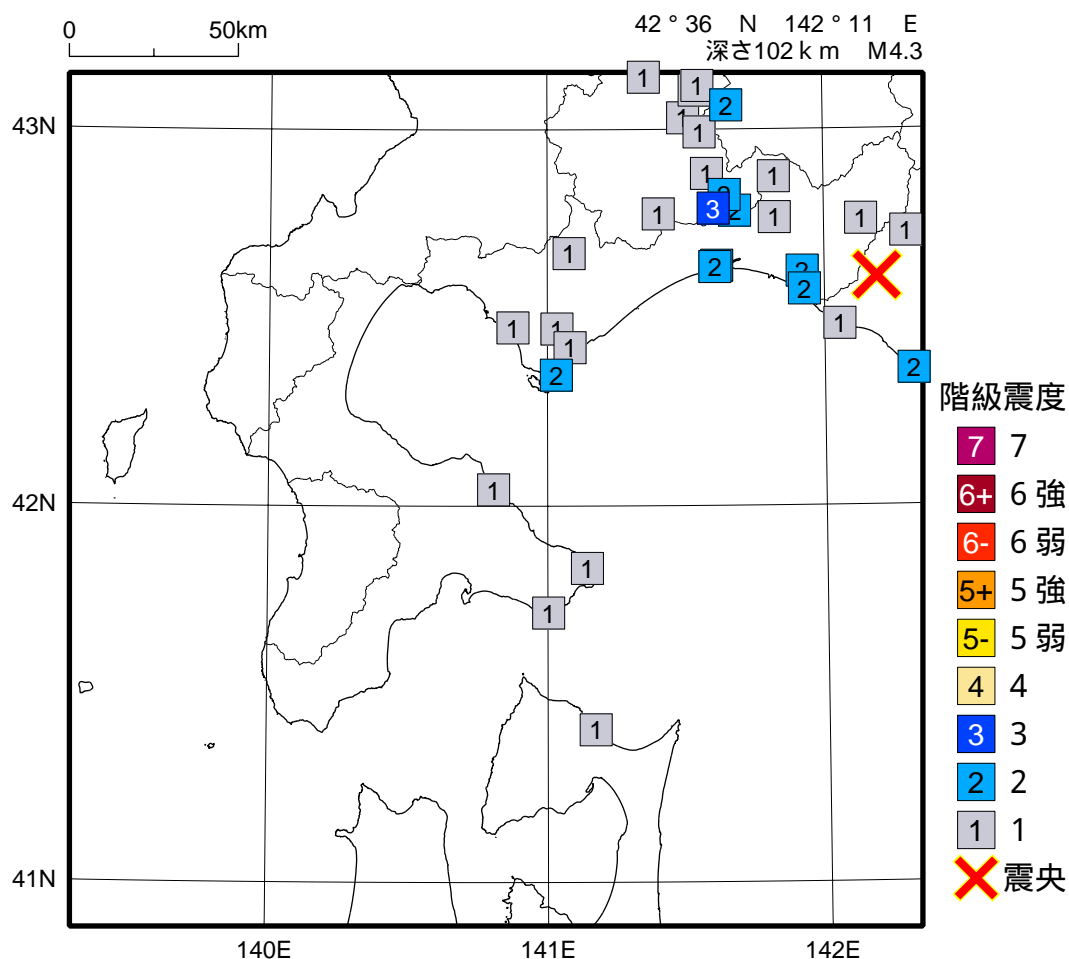
* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

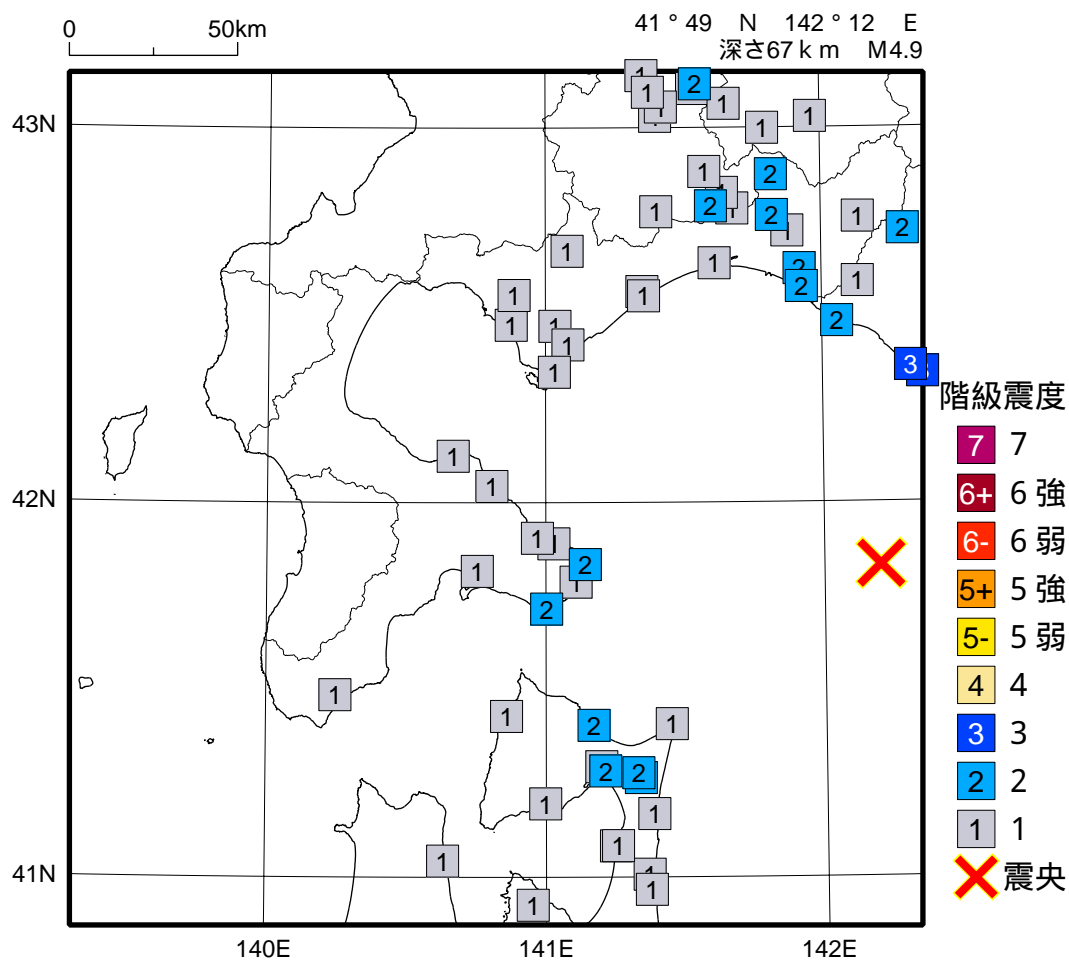
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

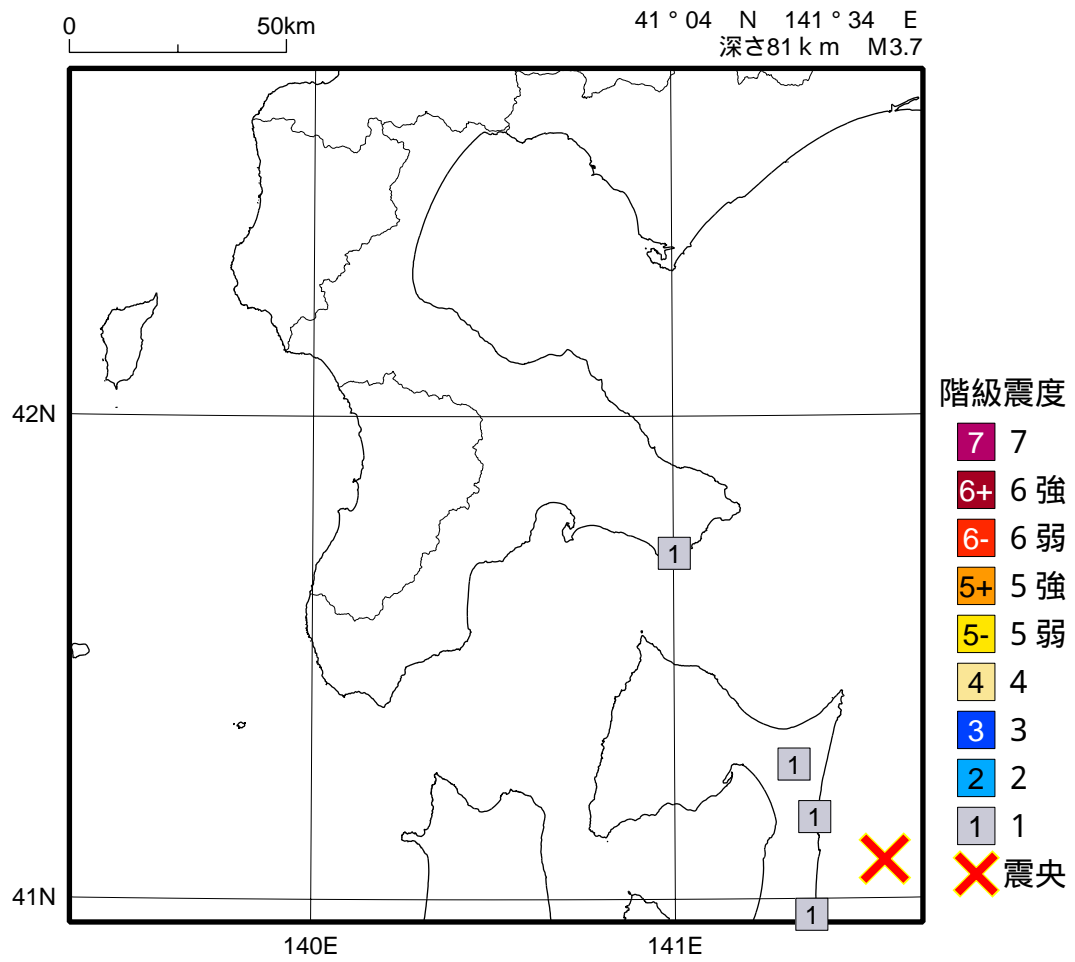
2022年 6月 1日10時19分 日高地方西部の地震の震度分布図



2022年 6月10日11時14分 浦河沖の地震の震度分布図



2022年 6月14日21時08分 青森県東方沖の地震の震度分布図



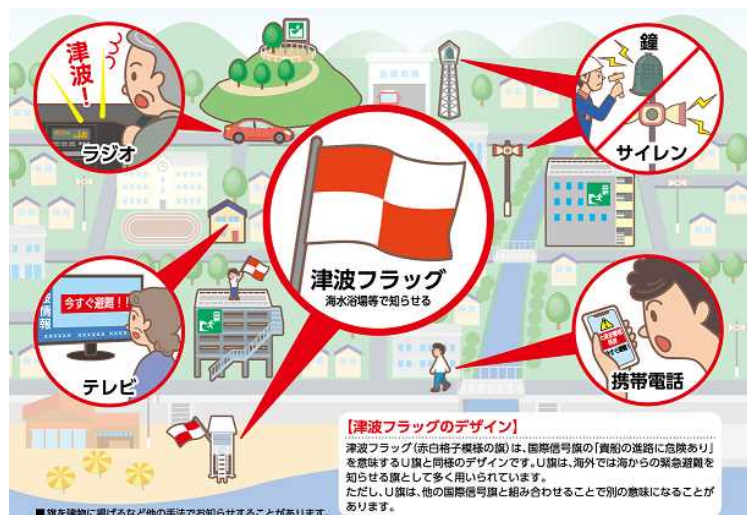
本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～「津波フラッグ」による津波警報等の視覚的伝達～

津波警報等（大津波警報・津波警報・津波注意報）は、テレビやラジオ、サイレン・鐘、携帯電話等、様々な手段で伝達されますが、令和2年夏から「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われるようになりました。「津波フラッグ」は、聴覚障害がある方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表を視覚的にお知らせするものです。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難してください。



●津波フラッグのデザイン

津波フラッグは、視認性や色覚の多様性を重視した上で外国人へも配慮し、海からの緊急避難を知らせる意味で海外でも用いられている「赤と白の格子模様」の旗としています。この旗は、国際信号旗の「貴船の進路に危険あり」を意味するU旗と同様のデザインです（ただし、U旗は他の国際信号旗と組み合わせることで別の意味になることがあります）。

●利用上の注意点

- 津波フラッグが用いられる場所は、海水浴やマリンスポーツなどを行う人がいる海水浴場等の海岸です。
- 津波フラッグの掲示は、砂浜や海水浴場の監視台等においてライフセーバーや監視員が振る、監視台や海岸沿いの施設に掲示するなどの方法が用いられます。
- 津波フラッグの伝達実施者の安全が確保されない場合、津波フラッグの掲出は行われません。
- 全国的には、海水浴場での津波フラッグの導入は少しずつ広がりつつある状況ですが、津波フラッグが導入されていない海水浴場や、運用されない時間や期間もあります。
- 海水浴場で強い揺れや弱くても長い揺れを感じた後は、津波フラッグを見かけずとも、速やかに海辺から離れ、より高い安全な場所へ避難してください。

●参考 URL（気象庁 WEB サイト）

- 津波フラッグの解説：

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html

- 津波フラッグに関するオンライン講演会（令和5年3月末まで（予定））：

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/lecture.html